

特別講演 2

「アナタの常識はワタシの常識ではない !!

報道事例から学ぶ“医薬品使用時の安全管理に必要な視点+α”」

医療安全システム・デザイナー

前山口大学大学院医学研究科 教授

同大学医学部附属病院 薬剤部長

古川 裕之 先生

薬物治療におけるリスクには、①薬物本来が持つリスク（薬物有害反応）と②薬物使用時の様々なエラーによるリスク（ヒューマンエラーによる健康被害）の2つがある。このうち、②物使用時の様々なエラーによるリスクについては、1999年にアメリカ合衆国で報告書「To Err is Human（人は誰でも間違える）」が公表されてから、医療現場における“ヒューマンエラー”が世界的に注目されるようになった。

わが国でも、2000年以降、当時の厚生省、製薬企業、そして、医療機関が“ヒューマンエラー”対策に積極的に取り組んだ結果、2000年代末には医療安全に関する基本的な対策が整えられた。そして、2010年以降には、再び、①薬物本来が持つリスク（薬物有害反応）に対する取り組みの必要性が再認識されている。

本講演では、ヒューマンエラー防止と薬物本来が持つリスク最小化に向けた対策のポイントを、マスメディアでの報道例を示しながら、わかりやすく解説する。